

カナダ・ジャスパーでアルバータ峰初登頂 100 周年を祝う

アルバータ峰初登頂 100 周年記念プロジェクト 吉川正幸
(写真は荒川一郎会員)

カナダのロッキー山脈のただ中にあるジャスパー市で、日本人によるアルバータ峰初登頂 100 周年を記念した式典と一連の行事が行われた。

2025 年 7 月 21 日、すなわち 100 年前（1925 年）の 7 月 21 日のアルバータ峰初登頂の日に合わせておこなわれた記念式典で、主催者は、カナダ山岳会（ACC）とジャスパー・イエローヘッド・ミュージアム & アーカイブス（以下、ジャスパー博物館）。日本山岳会からは 20 名の訪問団と、翌日からアルバータ峰登山に挑む日本山岳会ユースクラブの 10 名に加え、橋本しをり会長らが参加した。さらに、在カルガリー総領事館の方々や現地在住の日本人の方も加わっていたので、参加者は日本側だけで 40 名あまりとなった。カナダ側の出席者も多く、記念行事は全部で 100 名近くの参加者となった。

一連の記念行事は、前夜の歓迎パーティにつづき、7 月 21 日は午前 9 時からジャスパー博物館において、登山史家チック・スコット氏（ACC 名誉会員）による登山史の講演、記念公園での記念式典と昼食パーティ、午後にはマイク・モーティマー氏（元 ACC 会長、元 UIAA 会長）による頂上に残されたピッケルに関する逸話の講演、そして、ジャスパー博物館のアルバータ峰初登頂をモチーフにした巨大壁画のお披露目があった。



左から吉川、芳賀淳子会員、チック・スコット氏



ジャスパーの公園で行われた記念式典

晴れているとは言え、とても夏とは思えない肌寒さのジャスパーの広い公園で行われた記念式典では、ジャスパー市、カナダ山岳会からの挨拶、日本山岳会橋本会長の答礼などに加え、在カルガリー日本総領事の倭島岳彦氏から、氏のご家族とは今日の式典につながる浅からぬ縁があったとユーモアを交えてお話しされた。

また、訪問団に参加した 3 人の宮城支部会員からは、100 年前にアルバータ山頂に立った楨有恒、早川種三の出身地である仙台市長からのメッセージが披露された。

さらに、初登頂した三田幸夫元会長の子女である芳賀淳子会員が、お二人のお孫さんと共に式典に参加されていることが紹介された。芳賀淳子会員は『アルバータ山のピッケルものがたり』という子供向けの絵本を上梓され、ジャスパー博物館に寄贈することを英語でスピーチされた。

一連の行事の終わりには、ジャスパー博物館のアルバータ峰の壁画の前で、参加した全員で、「雪山賛歌」を歌い、英語版替え歌の「アルバータ峰」を歌ったことは、忘れがたい楽しい思い出になった。

この巨大壁画は、昨年 2024 年 7 月に、周辺でおこった大規模な森林火災によって、ジャスパーの町は建物の 3 分の 1 が焼失するという大災害を被ってしまったことによる復興支援のために制作されたものである。大火によって一時は記念式典を諦めかけていたが、ジャスパー博物館が奇跡的に焼失から免れたことを知って、プロジェクトを結成

し、カナダ山岳会の関係者と連絡をとって、ジャスパー復興支援のためにも是非とも開催すべく準備を開始したものである。私たちが僅かではあるが資金を寄贈できたことを嬉しく思う。



ジャスパー博物館のアルバータ初登頂をイメージした巨大壁画の前での集合写真

また、在カルガリー総領事である倭島岳彦氏から突然の連絡があり、父君が学習院大学山岳部（初登頂者のうち2名は同校OB）におられ、また、芳賀孝郎・淳子ご夫妻とは縁があったので、記念行事に参加したいとの連絡をいただいたことは奇跡のように思えた。さらには、カルガリー総領事館で、アルバータ州の要人を招待して、私たち訪問団の歓迎会を開催していただいた。

ジャスパーでの一連の記念行事を経験して、今更ながらジャスパー市とカナダ山岳会のアルバータ峰初登頂100周年記念行事への熱の入れようには驚かされた。私たちが忘れがちであったアルバータ峰の初登頂を、アルバータ州の歴史的な出来事として、今なお尊重しているジャスパー市民の誠意を感じた。また、カナダ山岳会関係者は、100年前に日本の若者が未踏の山に初挑戦をおこなったこと自体を評価していた。それは、チック・スコット氏の講演のなかで、現在もなお、アルバータ峰の垂直の1000mの北壁に挑戦する若者たちを取り上げて、記録に残そうという努力が続けられていることから理解された。

100年前の挑戦者の6人の若者は、ジャスパーを39頭の馬の荷と共に出発した際には、初めてのカナディアンロッキーの山へのアクセスも登頂ルートもわからず不安であったに違いない。不安を打ち砕き、氷雪の登山の困難を乗り越えて山頂に立った事実は、式典を通じて、私たちにも再認識させ、静かに感動するところがあった。未知へ挑戦する心を忘れてはいけないことを改めて知ったのだった。

楢有恒をはじめとする6人によるアルバータ峰の成功は、日本人初となる海外遠征であり、日本山岳会の礎となる出来事でもあったが、1923年9月の関東大震災の傷も癒えぬなかで、日本国民を元気づけた出来事だった。

なお、折れて長い間行方不明となっていた山頂に残されたピッケルは、アメリカと日本に分かれて保管されていたことがわかり、1997年の日本山岳会の年次晩餐会席上で元の姿に戻った。この伝説のピッケルは、ジャスパー博物館で大切に保管・展示されている。

挑戦という意味では、私たちのジャスパーでの記念式典に加わるための訪問団について触れなければならない。札幌から参加されたご高齢の芳賀淳子会員を始めとして、旅行参加者の20名のうち80歳を超える方が6名もいたのだが、2回の2万歩にもおよんだトレッキングに元気に参加されていた。後期高齢者の私も含めて、この旅行に参加することも、ささやかな挑戦でもあったが、全員元気に旅のハードスケジュールを終えることができた。

最後に、アルバータ初登頂を記念して、日本山岳会のユースクラブの松原尚之リーダーがアルバータ峰に挑戦した。

私たちが帰国したあと、登頂に成功したとの報に接した。気象条件が悪かったとはいえ、今でも氷雪の岩壁を登るのが難しかったと聞いて、100年前の挑戦が、いかに素晴らしいものであったかと再認識するのだった。



ジャスパー公園での記念式典にて（左から橋本会長、カナダ山岳会会長、芳賀淳子会員、一人おいて 倭島カルガリー総領事）



ジャスパーの歓迎前夜祭 「雪山賛歌」と替え歌「アルバータ山」を歌う



キャンモアのカナダ山岳会本部を訪問



バンフ近郊のルイーズ湖



ロブソン山自然公園



ロブソン山自然公園



ジャスパー近郊 太平洋 - 大西洋 アメリカ大陸分水嶺